

第6学年国語科学習指導案

日 時 令和7年11月27日(木)

第5校時 13:30～14:15

対 象 第6学年2組 24名

授業者 関 笙華

会 場 3階 6年2組教室

1 単元名 語って楽しむ！ビブリ王！

「私と本」(光村図書 国語)(6/8時間)

2 単元の目標

- ◎ 本の内容や魅力を読み取り、読書が自分の考えを広げ、役立つことに気付くことができる。

[知識及び技能](3)オ

- 自分の考えや感じたことを、本の内容と結び付けて表現することができる。

[思考力、判断力、表現力等](1)ウ

- 友達の発表を聞いて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)カ

- 自分の関心に合った本を選び、自分らしい方法で主体的に学ぼうとしている。

[学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与している。 (3)オ	① 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを広げている。 (C(1)オ) ② 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 (C(1)カ) ③ 話の内容が明確になるように、事実や感想、意見を区別して捉えるなど、話の構成を考えている。 (1)イ) ④ 自分の考えが伝わるように、適切に内容を捉え、表現を工夫している。 (1)ウ)	① 読書が自分の考えを広げることに関与し、これまでの学習を活かしてすすんで活動しようとしている。 ② 興味・関心に応じて本を選び、自分に合った表現を工夫しようとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、以下のとおり学習指導要領の第6学年の内容に基づく。

- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与すること。

A 話すこと聞くこと

イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

C 読むこと

- (1) オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを広げている。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。

(2) 教材観

本単元のねらいは、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付かせ、今後の読書の幅を広げていこうとする意欲や態度を育てることである。そこで、本授業では、今までの読書経験を振り返り、自分と本の関わりを自覚しながら幅広いジャンルの本に関心をもてるようにビブリオバトルを行う。また、言語活動を通して自己理解を深めるとともに、他者と考えを伝え合い、共有し合う姿勢を養うことができる教材である。この単元を通して、段階的に以下のような力を付けていきたい。

9月：一分間でおすすめ本を紹介し合い、読書意欲を高める活動

図書の時間に、自分のお気に入りの本の魅力を1分間で紹介する活動を行い、ビブリオバトルの基礎を身に付ける。聞き手は発表を比較し、良い点を評価する力を育てる。また、本を紹介し合うことで、読書意欲や友達の本への関心を広げる。

①主体性の育成

どんな形式で伝えるか、どの本を選ぶか自分で決める経験を通して、自ら考え判断する力を育てる。

②協働的な学びと他者理解

発表を聞くことで、「新たな本の発見ができる」、「自分と違う視点や読み方がある」ことに気づき、読書の幅を広げることができる。

10月：国語「やまなし」に関連付けた読書活動

単元開始前に宮沢賢治作品のブックトラックを設置して、児童が本を手に取りやすい環境づくりを行うとともに、並行読書に取り組ませる。毎時間の導入でブックトークを行い、児童の興味・関心を引き出す。単元の終末に宮沢賢治作品の中で、同じ本を選んだ人同士でグループを作り、各自が3分で本の紹介をする。同じ本を紹介することで、表現の仕方によって伝わり方が変わること気付く。

③表現力の向上

一人で語る、ペアで取り組む、動画や小道具を使うなど、自由な発表形式にすることで、児童の想像力や表現力を高めるために、誰と取り組むのか、何を使ってまとめるのかについて個人に委ねる。

11月：本単元で身に付けたい力

④「自分らしい学び方」の確立

課題解決に向けて、自分に合った伝え方や読み方を試行錯誤することによって、「どのように学べば、自分にとって効果的か」を考えるプロセスを大切に、単元全体を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還を意識した授業を構成する。

⑤課題に応じた学び方の調整

発表形式や選書の自由度を高め、複線的な学びの手だてを用意することで、児童の意欲と主体性が引き出せると考える。それにより、児童が自分の課題を自ら調整しながら学習を進める「課題調整力」や、他者と協働する中で学びを深めていく姿勢の育成を図る。

⑥読書の幅と関心の拡大

紹介する本のジャンルを限定しないことで、児童は自分の興味・関心に基づいて本を選べるため、読書がより主体的で楽しいものになると考える。クラス全体としても、紹介される本のジャンルが多様になることで、互いに新たな本や価値観に出合うことができる。

5 児童について

目指す児童像（高学年）

学びを自ら設計し、他者とともに学びを深めていく子

（1）児童観

本学級の児童は、読書に対して前向きな児童が多く、学年相応の本を楽しんで読んでいる児童が7割程度見られる。一方で、読書があまり得意でない児童には、文章を読むことや内容をまとめて表現することに苦手意識がある。昨年度より、教科の活動だけでなく、学級活動や朝の会等に人前で話す機会を設けてきたが、児童の実態として前での発表に消極的な姿が見られるため、安心して自分の思いや考えを伝えられる場や支援の工夫が求められる。

そこで、本単元では、児童一人一人が自分に合った本と出会い、自分のペースで本の魅力を整理・発信できるようにビブリオバトルの手法を用いる。児童の見取りを行い、実態を把握するとともに、児童がすすんで読書ができるように、教師によるブックトークや学級図書を十分に配置し、児童が本を身近に感じられるようにし、読書への抵抗感を減らしていく。

本単元は、ビブリオバトルを2回行う。1回目は個人で行い、2回目は個人・ペア・グループなど児童が自分で活動人数を選択し、個々の学び方を柔軟に設定することで、すべての児童が主体的に活動できることを目指す。

（2）目指す児童の姿

（1）の実態より、今後さらに育成したい児童の姿としては、

- ・「読む本や発表方法を自分で選び、自分に合った学び方を工夫できる児童」
- ・「本の魅力を友達に伝え合い、友達とともに学びを深めていける児童」

これらの力を高めるために、9月より自分の考えを整理して表現する経験を積み重ねていく。

また、発表方法を児童自身で選んだり、互いの考えを交流する活動や、スプレッドシートで学習の振り返りを共有したりすることによって、主体的な学びと協働的な学びを充実させていく。

6 研究主題に迫るための手だて

個人間差異	想定される課題	本単元で行う手だて
応用力の違い	本の紹介があらすじ紹介になってしまい、「その本を読んで何を伝えたいのか」を明確に表すことが難しい。	・ワークシートで、「この本は〇〇な人におすすめ」、「読んで〇〇を考えた」等、自分の考えを話す発表の型を提示する。 ・「感じたこと」「学んだこと」等の視点を明確にする。
学習スタイルの違い	原稿を書く、話す、発表するなどの表現スタイルに好みや得意・不得意などの個人差がある。	・内容を音読したり、短い動画を発表したり、寸劇したりと発表方法は児童が選べるようにする。 ・発表が苦手な児童には話のまとまりを書いたメモを児童自身で用意してもよいことを伝える。
興味・関心の違い	興味のあるジャンルが偏っていたり、紹介したい本がなかなか見つけられなかったりする。 本を読むこと自体に抵抗が	・個別最適な学びの視点から、児童が自分の関心や得意に応じて活動できるよう、紹介する本はジャンル問わず自由、紹介する人数や形式も柔軟に設定し、一人の紹介でも、数冊の紹介でも可能とする。また、おすすめの本だけでなく、「おすすめの著者」をテ

	ある。	マにしてもよいことにする。 ・チームでのビブリオバトルの前に、個人でのビブリオバトルを実施し、自信を付けたり、見通しをもって活動できるようにする。 ・児童の読書の様子を見取り、読書に抵抗がある児童には短時間で読める本や漫画の伝記などを薦め、読み切れたという成功体験を読書への自信に繋げていく。
--	-----	--

7 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い） [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

時	◇目標 ○主な活動	◆指導上の留意点	【評価規準】 〈方法〉
1	◇学習の見通しをもつとともに、ビブリオバトルの目的やルールを理解することができる。 ○「私と本」の教材を読み、単元の見通しをもつ。本と自分の関わりについて振り返り、教師によるブックトークとビブリオバトルの見本を見て、活動への意欲を高める。	◆活動の楽しさをイメージさせるために、興味をひく本の紹介を行う。 ◆ビブリオバトルのルールを明確化する。 ◆全8時間の授業の流れを説明し、児童が見通しをもつことで、学び方の調整ができるようにする。	【態度】② 〈スプレッドシート〉
2 	◇自分が紹介したい本を自由に選び、その本の魅力や伝えたいことを考え、ワークシートをもとにビブリオバトルの準備をすることができる。 ○学校図書館で紹介する本を選び、読書をする。 ○ワークシートをもとに、ビブリオバトルの準備を行う。	◆多様なジャンルから選べるようにし、読書が苦手な児童には読みやすい本を提案する。 ◆自由に児童の主体性を引き出すために、選書はジャンル・形式（絵本・小説、分類など）を自由にする。	【思・判・表】① 〈ワークシート、振り返り〉 【態度】② 〈ワークシート〉
3 	◇ビブリオバトルに向けて、話す順序や内容の構成を工夫し、聞き手を意識した伝え方を考えることができる。 ○読んだ本についてワークシートをもとに紹介したい場面、自分の感想、伝えたいことを整理し、構成や話す順番を考える。 ○自分の一番伝えたい核となる部分を考える。	◆話の順序を意識させるために、ワークシートを活用し、「なぜおすすめか」を焦点化する。 ◆伝えたいポイントを明確にし、構成や表現方法を工夫させるため、口頭で録音→文章に書き起こしを利用する。	【思・判・表】③ 〈ワークシート、振り返り〉

4 	◇第1回目のビブリオバトルを行い、友達の内容を聞き、振り返り、内容の良い点や工夫に気付くことができる。 ○書いたワークシートや構成メモをもとに、グループに分かれ、ビブリオバトルを行う。 ○聞く時の視点を意識して聞く。 (内容が分かりやすかったか、本を読みたくなる工夫があったかなど)そして気付いたことを振り返りに書く。	◆友達のビブリオバトルを参考にし、良さや工夫を共有する、互いの視点に気付ける場にする。 ◆ビブリオバトルの方法は、メモ用紙・朗読・動画など表現方法を自由にし、自信をもってビブリオバトルができるようにする。	【思・判・表】 ② 〈振り返り、ビブリオバトル〉 【態度】① 〈振り返り、ビブリオバトル〉
5  	◇第2回目の個人、ペア、グループでのビブリオバトルを行うことを見据え、本を選び、新たな構成を考えることができる。 ○グループに分かれ、ビブリオバトルに使う本を決める。 ○グループの中でワークシートを使って、どのような内容にするか話し合う。 ○前回のビブリオバトルや友達の意見をもとに、伝え方の改善点を考える。	◆グループ練習で表現を工夫したり、練習で客観的に自分のビブリオバトルを見直したりする。 ◆個人・ペア・グループなどのビブリオバトルの形態や、伝え方も演技、朗読、動画など自由に計画し、想像力・表現力を高める。 ◆児童が本の内容を再確認し、発表の質を高めるために、次回の授業日までに読む時間を十分確保する。	【思・判・表】 ④ 〈ワークシート、振り返り〉
6 (本時) 	◇原稿や構成を見直し、分かりやすく、魅力的に伝えるための言葉や表現を工夫し、聞き手を意識したビブリオバトルの質を高めることができる。 ○ビブリオバトル原稿やワークシートを見直し、内容や順序を整理し直す。 ○聞き手に魅力が伝わるように、言葉の選び方や話し方を工夫する。	◆聞き手の心に残るビブリオバトルにするために、エピソードを加える、問いかける、感情を込めるなどの工夫を具体的に紹介する。 ◆書くことが難しい児童が一人で悩まないように、助言できるような関係づくりや環境整備を大切にす。 ◆教師の支援が必要な児童は、必要に応じて視点や書き出し例などのヒントを与える。	【思・判・表】 ④ 〈ワークシート、振り返り〉



	○ビブリオバトルを見せ合い、良い点や改善点を出し合う。 ○自分なりに工夫したことをスプレッドシートに入力する。		
7 	◇相手意識をもって堂々とビブリオバトルを行い、友達の紹介にも関心をもって聞くことができる。 ○個人、ペア、グループでのビブリオバトルを行う。(クラス内)	◆事前にクラス全体に「どんなことを質問したらよいか」「どんなことに注目して聞くか」を共有しておく。 ◆タイムスケジュールを事前に児童と作成し、時間通りに進める意識を高める。 ◆必要に応じて教師がサポートし、対話的なやり取りを促す。	【態度】① 〈振り返り、ビブリオバトル〉
8 	◇ビブリオバトルを振り返り、本の魅力を伝える楽しさや読書の幅の広さに気付くことができる。 ○2グループに分かれて、他クラスでビブリオバトルを行う。 ○スプレッドシートの振り返りで、今までの活動の振り返りと、これからの自身の読書活動の目標について考える。	◆おすすめされた本の共有や、読書への新たな関心につなげる。 ◆勝ち負けだけでなく、聞き手に本の魅力を伝えることが大事だと再度伝える。 ◆ビブリオバトルの発表で読みたくなった本とその理由、発表の良かった点をスプレッドシートで簡単に記録・共有できるようにする。	【知識・技能】 ① 〈振り返り〉

8 本時（全8時間中の第6時）

（1）本時の目標

自分の考えが伝わるように発表の構成や表現を見直し、内容をより深めて聞き手を意識した表現を工夫する。

（2）本時の展開

[ : 個別最適な学び  : 協働的な学び]

学習形態	○学習内容・学習活動	◆指導上の留意点、配慮事項 【評価規準】〈評価方法〉 手だて
導入 5分	○本時の学習内容を確認し、見直しのポイントを確認する。 ・前時の活動を振り返り、自分の改善点を考える。 ・本時の流れを聞き、「どこを直すか」「どこを深めるか」を意識する。 ○本時のめあてを確認する。	◆前時の振り返りをする。 ◆よい発表のポイントを板書し、視覚的に理解できるようにする。 ◆全員が自分の改善点を想起した状態で活動に入ることで、本時のねらいを確認させる。
発表の内容や話し方を見直して、聞き手に伝わるよう工夫しよう。		
展開 35分 	○個人・ペア・グループで発表の見直しを行う。 ・ワークシートを用いて話す順番や伝え方を見直す。 ・より伝わる表現になるように、内容や問かけの言葉を修正する。（具体的な場面を入れる・話す順序を入れ替えるなど）	◆自分の課題（構成を直す、話し方を練習する）に応じた時間配分で活動できるようにする。 ◆個別に巡回し、悩んでいる児童に言語化を手伝ったり、具体例を示したりする。
	○発表練習を行う。 ・発表練習をして、教師やグループの仲間からアドバイスをもらう。 ・発表する姿を自分で録画して改善点を見付ける。	◆タブレットの録音機能を活用し、自分の声量や話し方を客観的に確認させる。 ◆よい発表の工夫や改善例を紹介し、学級全体に共有する。 協働的な学び 学びの個性化
終末 5分	○本時の目標に対する振り返りをする。 ・自分の改善点、工夫したこと、友達のアドバイスから得た気づきをスプレッドシートに入力する。 ○次時の学習について見通しをもつ。	◆スプレッドシートに入力することで、友達の意見を可視化できるようにする。 ◆クラスの傾向を踏まえて、共有したい工夫や課題について、共有する。 ICTを活用した振り返り 【思・判・表】④自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 〈スプレッドシート〉・振り返りをもとに、粘り強く試行錯誤し、発表方法を工夫しようとしている。

(3) 本時の評価

評価規準	
聞き手に伝えるために、自分の発表内容や話し方を見直し、工夫して表現している。【思・判・表】	
本時で想定される児童の具体的な姿	具体的な支援方法
「十分満足できる」 発表内容や話の順序を見直し、本の魅力を具体的に伝えたり、言葉の選び方や構成、話し方などの表現方法を工夫したりしている。	- 発表の工夫点を自分で見付けて改善できるように、発表用チェックリストを渡す。 - 発表の工夫を友達に共有できるように、助言する。
「おおむね満足できる」 発表方法を一部見直し、自分なりに聞き手を意識した表現にしようとしている。	学級全体で発表での優れた工夫を共有し、良さに気付かせることで、自分の発表に取り入れられるようにする。
「努力を要する」 発表の構成や話し方を自分なりに見直しているが、内容を強調して伝える部分や表現方法が明確になっていない。	- 発表内容の骨組みを教師と一緒に作りながら整理し、順序立てて考えられるよう支援する。 - 本の魅力を伝えるための簡単なフレーズや例を示し、言葉を選ぶ支援をする。

(4) 板書計画

〈見通し〉 1. めあての確認 2. 発表内容の見直し 3. 発表練習 4. 振り返り	めあて：発表の内容や話し方を見直して、聞き手に伝わるよう工夫しよう。
	ビブリオバトルのルール ・ ・ ・

(5) 資料

ビブリオバトルのルール 1. 紹介する本を決める。他の参加者に見られないようにする。 2. 4人グループで、発表順はルーレットで決める。 3. 1人3分間で順番に発表する。 4. 発表が終わるごとに2分間ディスカッション（質疑・応答）を行う。 例) 初めてその本を読もうと思ったのはなぜですか。 どんな人に読んでほしいですか。 5. 全員の発表後、投票する。 「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票する。 観戦者がいた場合、集計する。 6. チャンプ本を発表する。 最多票の本が複数あった場合は決選投票を行う。
